

総合評価

受診施設名	社会福祉法人ひまわりっこ ひまわり保育園	施設 種別	保育所
評価機関名	一般社団法人京都府保育協会		

令和2年12月16日

総 評	<p>1974年に認可外の共同保育所としてスタートし、保護者や多くの支援者の願いを受けて、2013年に一般社団法人、2017年に社会福祉法人の認可を取得し、2018年に「ひまわり保育園」を開園しました。また、同市内に「小規模保育園ひまわりっこ」も併設しています。「保護者と一緒に子どもを育て、保護者も子どもも一緒に育つ」を理念に掲げ、保護者が安心して預けることができ、子どもが健やかに育ち、地域交流の場となる園運営を目指して実践しています。</p> <p>徒歩5分圏内に阪急西山天王山駅があり、京都縦貫道出入り口も近く交通の便が良く、田畑・川・公園等への戸外活動を行いやすい立地にあり、設計・建築の段階から園長が携わった園舎は「外へのつながり」「人のつながり」をコンセプトに国産天然木をふんだんに使った明るく温かみのある建物になっています。</p> <p>小人数のクラス編成の基、2歳児から就学前までの異年齢児交流保育を実践し、年下が年上に憧れ、年上が年下を思いやる、きょうだいの様な関係性の中で、互いに育ち合う子どもの姿が見られます。</p>
特に良かった点(※)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育の質の向上に向けて、年3回のリーダー会議、毎月の職員会議・給食会議、各週の異年齢児会議、週1回のクラス会議・離乳食会議等で、保育内容の振り返りを組織的に行っています。また、保育者有志のクラブ活動では、緑化、手作り玩具、飼育活動等、保育環境を豊かにする具体的な取り組みを行っています。 ・ 総合的な人事管理については、「職務等級基準表」を明示し、職員の「仕事の成果」「仕事への意欲」「姿勢・態度」「業務遂行能力」を20項目の「人事評価シート」で自己評価する取り組みを行っています。それを基に園長との年2回の面談を経て助言・指導しながら管理者評価を行い、職員の資質向上を組織的に図っています。 ・ 子どもと地域との交流については、地域の自治会や農家組合に加入し、「地域新聞ひまわり」を年3回発行して園の取り組みを発信しています。また、秋には園前の公園でお祭りを開催し、地域の方も自由に参加できるようにしています。
特に改善が望まれる点(※)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業経営をとりまく環境と経営状況を分析して経営課題を明確にし、中・長期計画の策定や事業計画の具体的な目標に結びつけるとなお良いでしょう。 ・ アセスメントに基づく指導計画の策定及び評価・見直しについては、手法や手順を確立し、様々な業種の職員が共有・合意しながら計画作成にあたる仕組みを構築されるとなお良いでしょう。 ・ 3歳未満児や、発達支援が必要な子どもの保育については、一人一人の記録を踏まえた個別支援計画を作成されるとなお良いでしょう。

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【保育所版】 評価結果対比シート

(注)判断基準「a b c」について

【平成28年度以前の基準とは異なるため、当評価結果との対比はできませんのでご留意下さい】

(a)は質の向上を目指す際の目安となる状態、(b)は多くの施設・事業所の状態、(c)はb以上の取り組みとなることを期待する状態、に改定されました。改訂後の評価基準に基づいた評価では(b)が一般的な取り組み水準となり、従前に比べて(b)の対象範囲が広がります。また、改正前に(a)であった評価項目が改正後の再受診で(a)を得られなくなる可能性もあります。

受診施設名	社会福祉法人 ひまわりっこ ひまわり保育園
施設種別	保育所
評価機関名	一般社団法人京都府保育協会
訪問調査日	令和2年12月16日

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-1 理念・基本方針	I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	1	① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a	a

[自由記述欄]

・理念、基本方針が明文化されており、パンフレットやホームページ等で社会へ、入園のしおりや重要事項説明書等で利用者へ、事業計画や全体的な計画等で職員へ周知されています。また、理念にもとづいた「目指す子ども像」を明確化し、ホームページやパンフレットでは保育内容の写真と一緒に分かりやすく情報発信しています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-2 経営状況の把握	I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	2	① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a	b
		3	② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	b	b

[自由記述欄]

・事業経営をとりまく環境と経営状況については、園長が市の児童対策審議会に委員として参画するなど把握に努めています。今後、それら情報を分析して経営課題を明確にし、中・長期計画の策定や事業計画の具体的な目標に結びつけられるとなお良いでしょう。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-3 事業計画の策定	I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	4	① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b	b
		5	② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b	b
	I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。	6	① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b	b
		7	② 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	c	c

[自由記述欄]

・中・長期的なビジョンを明確にした計画については、中・長期収支計画を策定しています。今後、事業の目標設定や評価を行う具体的な中・長期事業計画を作成されるとなお良いでしょう。

・単年度の計画については、数値目標や具体的な成果を評価できる具体的な内容に深められるとなお良いでしょう。

・事業計画の評価見直しについては、年2回の理事会で実施されています。今後、職員もその内容を周知・理解できる組織的な取り組みが行われるとなお良いでしょう。

・事業計画を保護者周知する方法を検討されると良いでしょう。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組	I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	8	① 保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b	b
		9	② 評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b	b

[自由記述欄]

・保育の質の向上に向けた取組については、年3回のリーダー会議、毎月の職員会議・給食会議、隔週の異年齢児会議、週1回のクラス会議・離乳食会議等で、保育内容の振り返りを組織的に行っています。今後、定められた評価基準にもとづいて自己評価を行う仕組みを構築されるとなお良いでしょう。

・評価結果にもとづく課題の明確化や計画の改善については、評価結果の分析や課題を文書化し、改善計画に結びつける仕組みを構築されるとなお良いでしょう。

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-1 管理者の責任とリーダーシップ	II-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。	10	① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a	b
		11	② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a	b
	II-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	12	① 保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a	a
		13	② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a	a

[自由記述欄]

・管理者の責任については、「理事長等専決規定」や「運営規程」に明記して職員に表明されています。また、保育内容に関するすべての計画や各部門会議等の報告等を確認・承諾し、総合的なマネージメントに結びつけています。今後、園長不在時の権限委任について明確化されるとなおいでしょう。

・遵守すべき法令については、保育内容や労務管理について会議等で職員に周知されています。今後、幅広い分野についての法令を職員に周知するための具体的な取り組みを検討されるとなおいでしょう。

・保育の質の向上については、各種会議の他に、有志の職員で自己研鑽を行う「クラブ活動」を実施し、ガーデニング・手づくり玩具製作・飼育活動・広報・園内研修企画等保育の質やサービスの質の向上に向けた具体的な取り組みを行っています。また、「園内学習」と呼ばれる園内研修会をテーマを設けて実施しています。

・経営の改善や業務の実行性を高める取組として、人件費率の削減や残業ゼロ活動等、働き方改革と保育の質の両立を目指し、人事配置を工夫して事務時間を捻出したり、作業用のコンピューターを増設する等、環境整備を行っています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-2 福祉人材の確保・育成	II-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	14	① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a	b
		15	② 総合的な人事管理が行われている。	a	a
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	16	① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取組んでいる。	a	a

[自由記述欄]

・必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画については、設立当初より、「園の理念・方針・めざす子ども像」を共感し保育の質向上の意思を重視して採用を行い、離職者も少ないことから安定的な運営が行えています。新規職員の採用に向けて、ホームページで現職者の声を掲載する等、園の雰囲気や仕事のやりがいを発信する工夫を行っています。今後、人材の確保・育成の基本的な考え方や計画を整備されるとなおいでしょう。

・総合的な人事管理については、「職務等級基準表」を明示し、職員の「仕事の成果」「仕事への意欲」「姿勢・態度」「業務遂行能力」を20項目の「人事評価シート」で職員の自己評価を実施しています。それを基に園長との年2回の面談を経て管理者評価を行う仕組みを構築しています。

・働きやすい職場づくりについては、園の顧問である社会保険労務士と相談のうえ、時短勤務や時間固定勤務等、職員の家庭の事情に合わせた就労形態への配慮を行い、予防接種の補助等の福利厚生も進めています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅱ-2 福祉人材の確保・ 育成	Ⅱ-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確 立されている。	17	① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b	b
		18	② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・ 研修が実施されている。	b	b
		19	③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a	b
	Ⅱ-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる 専門職の研修・育成が適切に行わ れている。	20	① 実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整 備し、積極的な取組をしている。	b	c

[自由記述欄]

- ・職員一人ひとりの育成に向けた取組として、期待する職員像を「職務等級基準表」及び「人事評価シート」で明確に示しています。また、「人事評価シート」を用いた園長と職員の個別面談を年に2回実施し、職員の目標やそれに向けての実践の振り返りを共有し、総合的な人事評価を行う仕組みを構築しています。今後、目標水準や期限等を明確にされるとな良いでしょう。
- ・職員の教育・研修に関する基本方針や計画については、「職務等級基準表」に必要な専門技術や必要な知識等が示されています。今後、教育・研修計画を策定されるとな良いでしょう。
- ・職員一人ひとりの教育・研修の機会については、キャリアアップ研修等外部研修に希望者が参加できる仕組みを設けたり、週末や時間外に有志の園内研修を実施したりする等、職員の研修機会が確保されています。今後、研修計画やOJT等園内研修制度を構築されるとな良いでしょう。
- ・実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成については、基本姿勢、マニュアル、プログラムの整備が必要です。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅱ-3 運営の透明性の確 保	Ⅱ-3-(1) 運営の透明性を確保するための取 組が行われている。	21	① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a	b
		22	② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われ ている。	a	a

[自由記述欄]

- ・運営の透明性を確保するための情報公開については、園のホームページで現状報告及び財務状況を公開しています。また、地域に向けては年に3回地域新聞を発行し、園の取り組みについて報告を行っています。今後、事業計画・報告等を公開されるとな良いでしょう。
- ・公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組として、行政書士、社会保険労務士とコンサルタント契約し、専門家によるアドバイスを毎月受けながら適切な経営が行われています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅱ-4 地域との交流、地 域貢献	Ⅱ-4-(1) 地域との関係が適切に確保されて いる。	23	① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a	b
		24	② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確 立している。	c	c
	Ⅱ-4-(2) 関係機関との連携が確保されてい る。	25	① 保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携 が適切に行われている。	a	b
	Ⅱ-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を 行っている。	26	① 保育所が有する機能を地域に還元している。	b	b
		27	② 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われてい る。	c	c

[自由記述欄]

- ・子どもと地域との交流については、地域の自治会や農家組合に加入し、地域新聞ひまわりを年3回発行して園の取り組みについて情報発信を行っています。また、秋には園前の公園でお祭りを開催し、地域の方も自由に参加できるようにしています。今後、地域交流の基本的な考え方を文書化されるとな良いでしょう。
- ・ボランティア等の受入れについては、保育士による「緑のクラブ」（地域ボランティア活動）で園周りの環境美化に貢献されています。今後はボランティアの受け入れマニュアルを作成されるとな良いでしょう。
- ・関係機関との連携については、市の子育て支援課・健康推進課・就学支援センターと連携を図っています。今後、関係機関・団体等社会資源を明示したリストや資料を作成されるとな良いでしょう。
- ・地域の福祉向上のための取組として、災害用の備蓄リストを地域に公開しています。今後、地域の福祉ニーズに基づいた事業計画を策定されるとな良いでしょう。

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	28	① 子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	a	b
		29	② 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した保育が行われている。	c	b
	Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。	30	① 利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	a	a
		31	② 保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	a	b
		32	③ 保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	a	b

[自由記述欄]

・子どもを尊重した保育について、法人理念、目指す子ども像の中に明文化しています。今後、子どもを尊重した保育の提供に関する「倫理綱領」や規定等を策定されるとな良いでしょう。

・子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した保育について、「個人情報保護規定」を策定し職員と契約書を交わした上で遵守しています。今後、子どもの虐待防止の権利擁護について規定・マニュアルを整備されるとな良いでしょう。

・利用希望者に対するの情報提供については、ホームページを事務職員がリニューアルし、多彩なコンテンツで情報を提供したり、保育実践の写真や園舎見取り図を盛り込んだパンフレットを作成したりする等、保育所選択に必要な情報を提供しています。

・保育の開始・変更にあたっては、利用希望者に対して園見学で保育の様子を紹介しながら説明を行っています。また、保育の継続性を保障し、卒退園後も相談できる仕組みを整えています。今後、保育開始・変更についての適正な説明や保育の継続性を保障するための手順を明確化されるとな良いでしょう。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(4) 利用者が意見を述べやすい体制が確保されている。	33	① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a	b
		34	② 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	a	b
		35	③ 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a	b

[自由記述欄]

・苦情解決の仕組みについては、「苦情解決規定」を策定し、入園の際に保護者に説明を行って周知されています。今後、受付と解決の内容の記録が適切になされるとな良いでしょう。

・保護者が相談や意見を述べやすい環境については、送迎時に保護者が気軽に相談できるよう、標準保育時間中はクラス担任を配置しています。今後、意見を述べやすいスペースの確保等の環境を整備されるとな良いでしょう。

・保護者からの相談や意見への対応については、日常的なやりとりの中で出された保護者の意見を、職員会議で共有し園全体で対応にあたっています。今後、対応マニュアルを作成し、ご意見箱の設置や保護者アンケートの実施等をされるとな良いでしょう。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。	36	① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a	b
		37	② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a	a
		38	③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a	b
		39	④ 不審者の侵入時等に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている。	a	b

[自由記述欄]

・安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制については、「ヒヤリハット報告」、「かみつきひっかけシート」、「アクシデント報告書」の様式を今年度に見直しを行い、組織的に取り組んでいます。今後、リスクマネジメントに関する責任者の明確化やマニュアルの整備が行われるとなお良いでしょう。

・感染症の予防や発生時における子どもの安全確保については、看護師を配置し、子どもの健康管理と保健情報の発信を行い、保護者と職員に周知しています。今後、感染症予防と発生時の対応マニュアルを整備されるとなお良いでしょう。

・災害時における子どもの安全確保のための取組については、月1回の避難訓練を保育者の少ない時間帯や停電時等様々な想定で実施しています。今後、備蓄品の担当者を決めて、整備・管理する体制を構築されるとなお良いでしょう。

・不審者の侵入時等への対応については、警備会社と提携したり、監視カメラを設置したりする等、防犯に対する設備・体制を整えています。今後はマニュアルを作成し、非常時の対応について職員で理解を深めるとなお良いでしょう。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保	Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。	40	① 保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。	c	c
		41	② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	c	c
	Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。	42	① アセスメントにもとづく指導計画を適切に策定している。	a	b
		43	② 定期的な指導計画の評価・見直しを行っている。	a	b
	Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。	44	① 子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a	b
		45	② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a	a

[自由記述欄]

・保育の標準的な実施方法については、文書化され検証や見直しを行うと良いでしょう。

・アセスメントに基づく指導計画の策定及び評価・見直しについては、毎月の職員会議と年2回の保育総括会議において振り返りと検討を行っています。今後、アセスメントの手法や手順を確立し、様々な業種の職員が共有・合意しながら計画作成にあたる仕組みを構築されるとなお良いでしょう。

・子どもに関する保育の実施状況の記録については、経験豊富な保育士が多く、子どもの成長の記録も細やかに行われ、一人一人の子どもの成長を職員会議で情報共有しています。今後、記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をされるとなお良いでしょう。

・子どもに関する記録の管理体制については、「個人情報管理規定」を策定して適切な方法で管理しています。

a-1 保育内容

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
a-1 保育内容	a-1-(1) 全体的な計画の編成	46	① 保育所の理念、保育の方針や目標にもとづき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を編成している。	a	b
	a-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	47	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a	a
		48	② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a	a
		49	③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a	a
		50	④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a	a

[自由記述欄]

- ・全体的な計画（指導計画・食育計画・保健計画）の作成については、家庭との連携、地域・社会の実態等を加えた総合的な計画を作成し、職員参画の基、定期的に評価・見直しを行う仕組みを構築されるとなおります。
- ・生活にふさわしい場として、子どもが散歩で見つけた草花や木の枝等の自然素材や、子どもの絵画・造形作品で保育室が装飾され、遊びの足跡に囲まれて心地よく過ごせるよう配慮しています。
- ・子どもの状態に応じた保育については、毎月の会議において子どもの姿に応じた月案の報告を行い、全職員で子どもたちの発達を見守ろうとする体制を構築しています。
- ・子どもが主体的に活動できる環境については、2歳以上児の異年齢保育において、同じ玩具や素材であっても遊び方に違いが見られることに考慮し、幅広い活用を促す環境構成が行われています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
a-1 保育内容	a-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	51	⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		52	⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	b
		53	⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		54	⑧ 障害のある子どもが安心して生活でき喜んで遊べる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	b
		55	⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		56	⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画にもとづく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a	a

[自由記述欄]

- ・1・2歳児の保育については、一人一人の活動の記録がなされ、毎月の会議で共有し保育の振り返りを行っています。今後、それらの取り組みを個別指導計画として作成されるとなおります。
- ・3歳以上児の保育については、2歳以上児の異年齢児交流保育を実践し、絵画・造形活動ではそれぞれの発達を考慮して道具や材料を変える等、工夫されています。また、歌遊びでは、年長児が自信をもって生き生きと歌う姿に、年下の子ども達もよい刺激を受け、全体的に楽しんで取り組む姿が見られています。
- ・発達支援が必要な子どもの保育については、加配保育士を配置し、異年齢保育で様々な友達と関われるよう、子どもと保育者の適度な距離感に配慮した実践がなされ、月ごとの記録も行われています。また、保護者や関係機関との連携も適宜行われています。今後、それらの情報に基づいた個別支援計画が作成されるとなおります。
- ・長時間にわたる保育のための環境構成については、2歳以上児の保育室に面した廊下に、子ども用のベンチが備えられ、保育室以外でもくつろげる空間を作っています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
a-1 保育内容	a-1-(3) 健康管理	57	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a	b
		58	② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a	a
		59	③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a	b
	a-1-(4) 食事	60	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a	a
		61	② 子どもの喫食状況を把握する等して、献立の作成・調理の工夫に活かしている。	a	a

[自由記述欄]

・子どもの健康管理については、看護師と連携を図りながら適切に行われています。今後、マニュアルの整備をされるとなお良いでしょう。

・アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについては、医師の診断書と生活指導表に基づき、栄養士や看護師等職種の違う職員を交えた連携が図られています。今後、食物アレルギー対応マニュアルを作成されるとよいでしょう。

・食事を楽しむ工夫については、栄養士を配置すると共に調理員を多く配置を行い、献立に使用される野菜の実物展示や下処理の手伝い活動、稲や野菜の栽培活動、手作り誕生ケーキや行事食の取り組みがなされています。また、保護者に対しては、試食会や嗜好調査のアンケート等が行われ、家庭との連携が図られています。

a-2 子育て支援

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
a-2 子育て支援	a-2-(1) 家庭との緊密な連携	62	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a	a
	a-2-(2) 保護者の支援	63	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a	a
		64	② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a	a
	a-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	65	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a	b

[自由記述欄]

・家庭との連携については、0歳児から2歳児は個人の連絡ノートで一人一人の様子を報告しています。また3歳児以上も連絡ノートが用意され、保護者から園、あるいは園から保護者への個人的な連絡がとれる仕組みがあります。

・子育て支援については、園長が職員室前で送迎する保護者を出迎える等、日常的なコミュニケーションを大切にしています。そのことで、保護者が職員に気軽に相談できる雰囲気づくりを行い、相談の内容によっては個別面談の対応がなされています。

・保育実践の振り返りについては、管理職面談等が定期的に行われています。今後、保育のねらいを明確にされ、振り返りが次年度に生かされるよう全体的な計画（指導計画・食育計画・保健計画）の整備を進められるとなお良いでしょう。